

書籍案内

究極の思考術

あなたの論理思考力がアップする「二項対立」の視点 15

木山泰嗣 弁護士 著

いままでうまく回っていたビジネスモデルが揺らぎ、また人材が流動化している現在、会社の制度設計や意思決定について、他者に説明することを迫られる機会が増えている。しかし、従前「なあなあ」で決まっていたことを論理的に説明するのは難しい。ロジカルシンキング（論理思考）の書物が多く発行されているのも、多くの人があるような時代を生きる不安を抱えていることの表れといえそうだ。

木山泰嗣氏は、ち密な論理性を必要とする代表的な職業である弁護士だ。本書「究極の思考術」（法学書院、**写真**）で同氏は、得てして難解な、ちまたの「ロジカルシンキング本」について、「論理的思考力を一部の人間のみが扱う武器であるかのようにみせている」と苦言を呈し、学生やビジネスマンに向け、分かりやすく論理的思考のテクニックを語る。

本書で「必須のスキル」とするのが、物事を「二項対立」としてみること。「必要性和許容性」「形式論と実質論」「原則論と例外論」など、二項対立を設定する15の視点を示す。たとえば、練習問題として挙げられる「イチローと松坂はどう違うのか」をみる。別人格の2人には無限の違いがあり、途方に暮れてしまう。著者はこの問題を、「共通点と相違点」の二項対立として整理し、説得力のある答えを導き出す方法を探る。

世の中の現象で、二項対立として現れるものはむしろ少ない。論理的思考は所与のものではなく、ある意味で人工的であり、訓練でこそ身に付くものだと知ることが、ロジカルシンキングの第一歩なのかもしれない。定価 1300 円（税別）。

